平成 28 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域 知識情報システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

FD 活動単独での委員会などを開催してはいないが、毎月の学類会議において、カリキュラム検討やアンケート結果に対する意見交換を行っている。

２　ピア授業参観実施状況

被参観授業科目数　6

うち

自学類科目　5

その他の科目１

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

５　その他取り組みの具体的実施状況

１．知識情報システム演習 II のポスター発表の実施

ポスター発表を実施した。質疑応答が偏らないように教員に割り当て、前半・後半の 2 部構成で行い、質疑応答内容をレポートとして提出させた。

２．卒業研究の発表会の実施

口頭発表による発表会を実施した。すべての学生は 8 分の発表と 2 分の質疑応答を行った。全体を 2 つのグループに分けてパラレルで実施した。

３．ピア授業参加の科目を増やした。

平成 28 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域 環境システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

FD 活動は個別の委員会で行わず、学類会議や課程会議において、授業の進め方や学生発表会の開催方法などについて協議を行ってきた。詳細は５に記している。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

５　その他取り組みの具体的実施状況

・環境システム学類の授業の多くは、複数教員の担当によって運営されている。そのことで、学生は多角的な研究の視点を学ぶことができ、教員自身も教育・研究に関する見解を広げることが可能になっている。たとえば、「環境システム学演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生全員による発表会に全教員が参加することで、提示された成果への確認とさらなる示唆が、複数の教員から学生に直接与えられている。また、「環境共生科学入門」「社会共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」「心理療法論」などでも、連続的かつ多様な内容が学べるよう、複数の担当教員が連携しながら授業を進めてきた。

・特に、社会共生科学課程においては、平成 30 年度に向けて、人文社会科学的領域での教育課程の強化を行うべく、今年度は 16 回の課程会議を開いて協議を進めてきた。その結果、主として「文化表象」、「政治経済」、「歴史」の領域において、平成 30 年度からの授業科目増強の計画を具体化することができた。

・サステナビリティ科目および他学類専門科目の検討を行った。

・高校地歴の教免課程について検討を行った。

・編入学の制度について検討した。

・ダブルディグリー等について検討を行った。

・早期卒業の制度を検討し実施要領等を定めた。

・卒業研究成果の提出および発表について検討した。

・過年度生の卒業や休学を伴う場合の転課程について検討した。

平成 28 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域 マネジメント学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

- マネジメント学類教育運営委員会が主体となり、マネジメント学類全体の FD 活動を実施している。
- マネジメント学類教育運営委員会では、ピア授業参観の運営、カリキュラムの改善などを行っている。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	46	3	
後期	55	5	
年度合計	101	8	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
マネジメント学類教育運営委員会	マネジメント学類全体の FD 活動を企画、実施	9	8

５　その他取り組みの具体的実施状況

・　「成績評価ガイドライン」（現代システム科学域として統一）と経済学部「成績評価ガイドライン」を確認し、説明した。

・　学生の視点に立ちシラバスを活用する方策等に関する授業運営課題と教育改善事例の共有

- 全学的な教育改革専門委員会におけるシラバスの活用及び時間外学習に関する議論を踏まえ、学部・学類における関連課題を、マネジメント学類及び経済学部教育運営委員会の場を中心に議論した。毎年のように公認会計士試験現役合格が認められていることがその一端を示すように、マネジメント学類及び経済学部では授業運営での成果が見られるが、さらなる授業改善をめざし、進路状況や授業内容などを鑑みた個別の事情を全学的な観点から再検討した。経済学等の社会科学の大人数授業と理工系の少人数の実験との違い、卒業論文の位置づけ、期末筆記試験の実施、教育改革専門委員会アンケートの妥当性や対応などを検討した。

・　授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメントを促進した。

・　卒業論文について検討した。

- 年間の GPC 統計に基づいての、成績評価に関する検討を実施した。
- マネジメント学類のカリキュラムの再検討を実施した。
- マネジメント学類の次年度カリキュラムに沿った FD 活動を検討した。
- 早期卒業の実施要領を作成し、申請者について早期卒業判定を行った。
- 上級生調査 2015 の分析結果を共有し、授業改善などに役立てた。

H29年度　現代システム科学域のFD活動

＜現代システム科学域＞

１．昨年度同様，学域共通の必修3 科目を対象に以下の活動を実施する.

・対象科目：情報とサスティナビリティ，環境とサスティナビリティ，マネジメントとサスティナビリティ

内容：

・ピア授業参観の実施

・講義資料の学類内での共有

・上記に基づいた次年度講義内容の検討と改善

・編入学制度の導入に向けたカリキュラムの調査・検討

＜知識情報システム学類＞

１．ピア事業参観の実施

２．知識情報システム演習IIのポスター発表の実施

３．卒業研究の発表会の実施

＜環境システム学類＞

１．環境システム学演習ⅠおよびⅡの発表会の実施

２．卒業研究発表会の実施

３．入試問題の再検討（出題の傾向性について継続的検討）

＜マネジメント学類＞

１．大阪府立大学ＦＤセミナーへの積極的参加

２．学類内ＦＤセミナー

　□ マネジメント学類カリキュラムの改正の情報共有と学生への説明

　□ 授業運営課題と教育改善事例の共有

３．ピア授業参観の積極的推進

４．授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメント

５．卒業論文のあり方についての検討

６．年間の GPC 統計に基づいての、成績評価に関する検討

７．早期卒業、H30 年度課程新設の観点からのカリキュラムの再検討

８．次年度カリキュラムに沿った FD 活動の検討